

農業機械の輸出拡大

野菜洗浄や皮むき機

農業機械装置開発のエフ・イー(旭川市)は野菜洗浄・皮むき機などの輸出を本格化する。中国、韓国、台湾、米国・ハワイの産地向けに供給。中国市場ではOEM(相手先ブランドによる生産)も視野に入れる。独自の技術力や円安を追い風に市場を開拓。数年後に海外売上高3億〜4億円を目指す。

同社の主力製品は大根の評価を得ている。洗浄機で、ブラシ先端に水膜を作ることによって葉付き大根を回転させながら傷つけずに泥を落とせる。2002年の開発以来、国内でこれまで400台(1台150万円から)を売り上げ、道内外の産地への評価を得ている。同社は海外へは商社を介さず、農業生産者に直接輸出する考え。過去に一時韓国にも輸出していたが、円高の影響もあり海外産地との商談はストップしていた。昨年末以降、円安が続くなかで中

エフ・イー、円安追い風に 中国では委託生産視野



ハワイなどから関心が寄せられている大根洗浄機

国、台湾、ハワイなどからの引き合いが強まっている(佐々木道彦社長)。中国では泥の付いた大根を手作業で落とすとき

だが、人手が集まらずに人件費が高騰。青島など葉付き大根洗浄機に着目

する産地が増え、商談を進めている。市場拡大が見込まれる中で、ブラシ部品などは供給し、現地機械製造会社が装置を組み立ててOEMで販売する体制も検討する。ハワイには大根の産地

もあり、日系人も多く需要が多いことから関心を寄せている。台湾では大根洗浄機に加え、昨年11月に特許を取得した、シヨウガの曲がりやへこみ部分の泥もきれいに落とせる生姜(しょうが)洗浄機

の商談も進めている。海外の現地農家の引き合いに応じて相対で商談を進め、ニーズに合致した製品を搬入していく方針だ。同社は多孔ドラム式に

よる、ジャガイモなど根菜類の皮むき機なども開発し、12年3月期の売上高は6億円。国内産地は高齢化や後継者不足などで頭打ち感もある。海外市場開拓により、事業拡大につなげる。